

女性を、地域を
もっと元気に!

全国「リビング新聞」編集長の 読者が動いたヒット企画

全国56エリアに広がる「リビング新聞」には、地域に密着し、女性を元気にしたいと、日夜さまざまな企画を生み出している編集長がいます。情報を発信するだけでなく、読者を動かし読者をつなぐ…2017年に実施し、ヒットした各地の事例を一挙にご紹介。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

今野真一

編集長



**今あえて、旅で地域の魅力を再発見
リビングのナビゲート、だから動く!**

かつての周遊型旅行から個人型・滞在型へと旅のニーズは変わり、観光団体旅行のマーケットは縮小傾向が進む今の時代に、リビング仙台が選んだ道は、地域の魅力をもう一度掘り起こす小さな旅のラインナップ「リビング仙台ツアー」。今年は5000名を超える読者が「動く」に参加しました。ヒットのキーワードは「食」であり、そして「山」であり。「心」でもあり、または「出会う人」であり。旅の志向が変わっても、読者とリビングの親和性こそが、この動きを活性していくものと信じています。

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング福島 郡山

鈴木朱美

統括編集長



**食育応援企業団とタッグを組んで
福島の子どもの「食力」アップ**

震災後、子どもの運動不足・肥満傾向児の増加が課題の福島県。我々も食育を推進する「福島県食育応援企業団」に加入し、独自に「No!! 肥満児プロジェクト」を展開してきました。今春、同企業団である地元スーパーとキューピーに呼びかけ、県産野菜の収穫とマヨネーズ&サラダブーケを作る「食育体験ツアー」を実施。20組40人の親子が即定員に達し、盛況のうちに終了しました。12月には冬野菜編を開催。流通×メーカー×リビング新聞が連携し、今後子どもたちの「食力」アップを担います。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングとちぎ

三井美紀

編集長



**ミセスのための特別バスツアーを企画!
心をつかむプランで満席に**

リビング新聞が制定・提唱する「主婦休みの日」に合わせて、今年度は「主婦休みの日特別企画“ひとり時間”満喫日帰りバスツアー」を企画。5月は都内、9月は軽井沢を旅するプランで、通常のバスツアーでは訪れないレストランやホテルでの特別ランチ、買い物ができる人気お土産スポット、話題のスポット観光などを織り交ぜた「自分たちが本当に行きたい!」と思うプランがポイント。ミセスの心をつかみ、リビング配布直後から申し込みが殺到・満席に! 1月も実施予定です。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

飯塚香織

編集長



**創刊35周年のプレミアム企画!
“宝塚観劇&ホテルランチ会”**

2017年10月、創刊35周年を迎えた「リビングかしわ」。何かスペシャルなプランを…という思いから読者の声をリサーチ。10/1、ザ・クレセントホテル柏でランチを満喫し、宝塚歌劇月組リビング貸切公演が観劇できる、夢のようなプランを実現しました。しかも、S席1階1~9列で観劇というプレミアムぶり。ペア25組の募集でしたが、あつという間に定員超過になりました。「こんな企画を待っていた!」とのうれしい声も。ツカファンも宝塚初心者も、心ときめく特別な1日でした。

Tokyo

サンケイリビング新聞社 リビング東京副都心
東京西 東京南 東京東 東京リビング

岸野順子

編集長



**夏休み体験だって江戸前がいいね!
ユニークイベントに80組170人参加**

昨年夏、「親子で落語体験」「能楽堂の舞台にも上がる能体験」「世界で一つのダンボールハウス作り」「大型バスの運転士体験」、4つの親子イベントを実施しました。情報収集力が高く、子どもに様々な体験をさせている東京の読者を唸らせるコンテンツをと、スポンサーや活躍中の落語家、能楽師の皆さんにお力添えをいただき、無事ミッション達成。計80組170人の親子の笑顔の花を咲かせることができました。希少体験、伝統芸能、地域密着の3つのキーワードがハマったようです。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

新山明子

編集長



**主婦が主婦友を呼んで1400人集客
みんなが元気になる「主婦の文化祭」**

10回続いた主婦の手作り祭典「アート&ライフマーケット」に、フラダンスやダンスパフォーマンスなどライブステージを加えて、ネーミングも新たに「主婦の文化祭」を開催しました。ライブステージの出演者も地元の主婦。主婦が主婦友を呼んで、当日1400人の集客がありました。「同世代ががんばる姿に元気をもらった」という読者。会場で共催のホテルには多くの女性が集い売上げも上々。関わったみんなから次回も期待!の声をいただき、私たちも元気になった一日でした。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま

佐藤順子

編集長



**テーマを絞った定員制のセミナーに
「学びたい」「輝きたい」読者が500人**

2017年6月に浦和コルソホールで「BHL(ビューティー&ヘルシー&ライフ)セミナー」を開催。約500人が参加しました。「年齢に負けないステキな人生!」をテーマに、協賛社10社によるセミナーを中心に展開。美容・健康分野の講座は告知早々に定員になり、セミナー後にはブースにも多くの人立ち寄りしました。来場者数ではなく、来場者の質に重点をおき、テーマを絞った定員制セミナーとしたことで、「もっと学びたい」という向上心にあふれた質の高い読者を集めることができました。

Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビングふなばし・ならしの

高橋節子

副編集長



**街全体がアニバーサリーヤー!
地元トップたちが笑顔で語る紙面が好評**

2017年の船橋市は、市制施行80周年をはじめ、西武・東武・パルコなど大型流通店も大きな周年を迎え、街全体がアニバーサリーヤー。そこで、広告企画「ふなばし周年スペシャル」を実施。記事部分には街の今昔写真を入れ、市長、商工会議所会頭、商店会連合会会長、広告主各社のトップが、一言メッセージ入りのフリップを持って登場! 笑顔で次の時代への意気込みを語りました。堅くなりがちな内容をリビング新聞らしい演出で届け、読者にも広告主にも注目されました。

Chiba

サンケイリビング新聞社
リビング千葉

大石登子

編集長



**700人の読者が手形をもって街歩き!
「ちば ぶらぶら祭り2017」**

2010年に始めた「ぶらぶら祭り」は、500円で手形を販売、参加者は手形を首から下げて、自慢の逸品を食べたりもらったりして街を楽しく巡るイベントです。今年は、千葉市中央区商店街協議会・千葉商工会議所主催、ペリエ千葉に特別協賛をいただき、弊社は企画・運営を。手形700枚は完売、35の協賛店から8店選んで街をぶらぶらした参加者からは「知らないお店を知るきっかけになった」、協賛店からは「こんなに人が来てくれるんですね」等々、うれしい声をいただきました!

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

石河久美

編集長



**地元ホテルとのコラボで実現
「立川で歌舞伎を楽しむ会」に100人!**

地元の市民会館に毎年、歌舞伎公演がやって来ます。その主催者からチケット販売の相談を受け、「歌舞伎といえどお弁当…」と日ごろからお付き合いのあった地元ホテルに話をすると、二つ返事でコラボが決まり、ホテルで和弁当をいただいで歌舞伎観劇というプランが実現。これを紙面で告知したところ、受付開始から3日で、用意した100席が完売! 当日会場では、参加者から「とても楽しかった」「来年もぜひ」と感謝され、「これぞリビングらしい企画」と再認識する結果となりました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東 横浜南

山内綾子

編集長



**横浜の歴史×美食イベント
「おいしい横浜めぐり」に1800人**

横浜の歴史を、老舗の特別料理とともに堪能するイベント「おいしい横浜めぐり」。3年でのべ1800人の読者が参加しました。2017年のヒットは「横浜三塔の足跡巡り×名店アルテリベ限定料理」(定員40人・7500円)と「聲明(しょうみょう)鑑賞×岩亀本店うなぎ特別料理」(定員30人・1万5000円)の豪華2本立て。どちらも参加したい!と380人を超える応募がありました。コアファンである50代・60代女性たちの「楽しかった。次の企画も期待してる」の声が成功の証です。

DenenToshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

町田洋子

編集長



**アクティブシニアの好奇心に応える
料亭でのイベント開催**

創刊20周年を記念し、横浜市内最古の料亭「田中家」での美食イベントを開催。参加者からは「このお店に興味があったけれど、ハードルが高くて。リビングでイベントを開いてくれたから来店できた」という感謝の声が。読者とお店の橋渡しができたこと、リビングが信頼される媒体であることを実感しました。参加者の平均年齢は63.4歳で、好奇心旺盛で行動力があるアクティブシニア。企画内容によってはこの世代も動くことが分かり、今後も期待に応えていきたいと思えます。

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ

増渕直子

編集長



人生を豊かにするヒントいっぱいのセミナー
アラフィフ女性の心を掴みました！

50代からの新提案と銘打って「リビングビュー
ティーライフセミナー」を開催。リンパケアや
睡眠、お金の増やし方など6つのセミナーを企
画しました。事前予約もほぼ定員となり、当日
はのべ220人の読者が参加。50代からター
ゲットに、テーマを健康・美容・お金と明確に
したのが功を奏し「とてもためになった。これ
からの人生に生かしたい」「もっと聞きたかった」
と大好評でした。“生き生きと元気に毎日を過
こせる”お手伝いができるのがリビングだと実
感！「次回もぜひ」の声に応えたい！

Nagoya

名古屋リビング新聞社
リビング名古屋中央 名古屋東山の手
名古屋みなみ 名古屋ノースイースト

島田文美子

編集長



キラキラ！のプレミアム感
2部制パーティーに応募2500件

キラキラした新スポットは、名古屋ダムにとっ
ても注目の的！10月に待望のホテル「名古屋
プリンスホテル スカイタワー」が開業。オープ
ン前に、読者を無料招待してレセプションパー
ティーを開催しました。応募条件は、SNSで
当日の模様を、一般公開でアップすること。2
部制（昼リビング新聞、夜シティリビング）各
定員50人に対し応募は約2500件にも。プレ
ミアム感を打ち出して募集した結果、おしゃれ
をした参加者は満足度から次々に拡散。宿泊
予約をした人も！

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング大阪・兵庫

城山千尋

編集部部長代理



親子の理系体験に3353組の応募
組織化で教育情報発信も

夏休みに親子で理系体験をと2013年に開始し
た「リビング子ども科学大学」。2017年は大阪・
兵庫の国公立・私立、計8大学の協力で実施し
たところ、198組の定員に対し3353組の応募
が。競争率は昨年の9.3倍から16.9倍と大幅に
増加。人気のけん引役は大阪市立大学医学部
の病院でのお仕事体験でした。応募者はイコ
ール教育に関心の高い読者。これを逃す手はない
と「リビング学びくらぶ」として組織化し、教育
情報を発信。メール配信では高いクリック率を
誇っています。

Shonan

湘南リビング新聞社 リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮

増田誠子

編集長



子どもの交通安全を呼びかけて30年
記念イベントに500人以上が来場

子どもたちの交通安全を願ひ、交通安全諸団
体の協力、企業・団体の協賛を得て行っている
「交通安全チャリティーキャンペーン」。毎春、
交通安全手帳を神奈川県警察の指導の下で制
作り、4市2町の約1万人の新小学1年生に配布。
読者公募の交通標語は例年100作品以上が寄
せられます。昨年30回を迎え、親子2代で手
帳を手にした読者も。8月には交通安全を学ぶ
「交通安全フェスタ」を開催し、500人以上が
来場。継続は力なり！ これからも地域と一
体となり、地元へ貢献していきます。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀

山本和子

編集長



これからのことが気になる
今回2会場で「終活セミナー」を開催

滋賀リビング新聞社では、7回目となる「終活
セミナー」を2017年10月に開催しました。こ
れまで1会場のみでしたが、毎回好評で、今
回は大津市、草津市と2会場で開催。弁護士、
税理士による相続に伴うお金の話やもめごと
などの話、介護の専門家による“老後の住まい
方、についての話に参加者は熱心に耳を傾け
ていました。事前にリビング紙面で参加者を募
集、両会場とも定員60人に対して約90人の
応募がありました。参加者には喜んでいただけ、
次回の開催も予定しています。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山

野田知世

副編集長



シリーズで学んだ防災術
親子で楽しんで取り組める趣向に

今年3月11日号のフロント特集で「防災キャン
プのすすめ」を展開。アウトドアの技術や知
識が災害時に役立つことを紙面で啓発し、親
子で実践的に学んでもらえる「リビング親子
防災デイキャンプ」を企画しました。春から夏
にかけてシリーズで3回行い、のべ31家族約
100人が参加。野外で「マッチ一本で火起こし」
に挑戦して「ポリ袋クッキング」をしたり、テ
ントを張ったり、またローワークを学んだり、
参加した親子は意欲的に取り組み、さまざま
な技を身に付けました。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡

松永恵理

編集長



地元の大学や専門学校を中心とした
「大学・専門学校資料無料配布フェスタ」

リビング静岡では、静岡県内にある大学への
学長インタビューをはじめ、多彩な大学特集を
展開しています。毎年夏に行っている、地元や
県外の大学・専門学校の資料が無料で手に入
る配布会には、女性の保護者はもちろん、男
性の保護者にも大好評。さらに学生同士でプ
ースに遊びに来る姿もありました。また、今回
は学長インタビューの記事を掲示したことで、
OGやOBも立ち寄り、熱心に読んでいました。
リビング主要読者は女性ですが、企画内容に
よっては男性の心もつかむことを実感しました。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都

内山土子

編集長



京ブランド認定食品が一堂に
あれこれ見比べ、試食もOK

昨年1月に開催した「彩食健美（さいしょくけん
び）パレタインフェスタ2017」。京ブラン
ド認定食品「京都珍味百撰」の試食・販売や
美容グッズのプチ体験など、“美と健康”をテ
マにしたイベントです。
1部は申し込み不要・入場無料で462人が来
場。2部は事前予約制・入場料500円のとこ
ろ428人の申し込みがありました。同じブラン
ド認定食品を一堂に集めたことが
この催しの特徴。「一度に見ることができて良
かった」との声もありました。

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路 加古川

桑田稜子

編集長



播磨リビングオリジナル土産が完成
読者の声から生まれた菓子とポーチ

播磨土産を作る！これが今年度の目標でし
た。読者から「帰省する際の手土産に困って
いる」と聞いたのがきっかけです。編集部と読
者モデルで、姫路特産のユズ入りカステラ「ひ
めゆずじ」と高砂市出身の発明家が江戸期に
開発した帆布を再現した「リピンぎゅっとポー
チ」を完成。菓子には読者から募った「姫路
あるある」のカードを添えて風土や文化も各地
へ届くようにしました。いずれも好評で、菓子
は全てのイベントで完売。播磨土産といえば「ひ
めゆずじとポーチ」となればうれしいです。

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま・くらしき

新山 錬

執行役員編集長



倉敷リレーマラソンに約150組が参加
笑顔で走れる健康イベント…がツボ！

「第3回倉敷リレーマラソン2017」（昨年12月
実施）は、会場の岡山県倉敷スポーツ公園（倉
敷マスカットスタジアム）に、職場、大学生、
家族など幅広い年齢層のランナー約150チ
ームが勢ぞろいし、タスキをつなぎながら4時
間のタイムを競いました。仮装ランナーもOK
とあって毎回、笑顔が絶えません。今回は小
学生ミニマラソンに低学年の部も新設。「優勝
するで〜」と張り切る子どもたちに、「負けれ
んなあ」と大人ランナーが刺激される、アツ
ホームな健康マラソンです。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ

谷本小百合

編集長



あまごをキャッチ、お宝ゲット
パパも行けるイベントが強い

夏は自然豊かな清流で、元気なあまごをつか
みどり！秋は家族で力を合わせて、1枚の宝
札を見つける宝探し大会。どちらも想像を上
回る申し込み数で、4回目となる宝探しは定員
300家族のところ、過去最高430家族1600
人弱の応募を記録。当日は台風に見舞われる
という不運もありながら、豪華賞品をゲットし
た読者の心からの笑顔が私たちの励みとなり
ました。自社イベントの中でもこの2つは、お
父さんが子どもに存在感を示せる日。そんな
機会が求められていることを実感しました。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡

前田和美

編集長



多彩な「ふくおか応援割」ツアーで
九州北部豪雨の被災地を支援

弊社には女性向けツアー専門部署があります。
そのノウハウを活かし、今年夏の九州北部豪
雨被災地支援のための福岡県の助成制度を利用
し、オリジナルツアーを実施しました。第1
期（9月～10月上旬）は地元にお金を落とす
ために食事にこだわったウナギ料理ツアー（定
員27人）やヒマワリと果物狩りツアー（同29
人）が満席に。第2期（10月下旬～1月）は客
層の変化をつけるため参加費は安めに設定。
被災地域以外の観光スポットも含んだプラン
に。紅葉ツアー（同32人）は増席実施！

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま

綿谷千恵子

編集長



緑に囲まれた公園でのフリマ
152ブース出店、5000人来場

「次のフリマはいつ？」。そんな問い合わせが入
るほど、リビングのフリマは読者に好評です。
2017年秋の「風と緑のフリーマーケット」も、
152ブースの出店で5000人が来場。会場は
緑の木々に囲まれた市民の憩いの場となっ
ている公園の芝生広場で、出店者も買い物客も
とても和やかな雰囲気。同日同会場では市主
催の「体育の日まつり」も開かれ、イベント全
体の来場者は8000人。リビングの集客力に
市の評価も高く、風と緑のフリーマーケットは
2018年の開催も決定しています。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま

宮本 舞

デスク



子どもは楽しい！ミセスにお役立ち
ショッピングモールに親子が集合

昨年10月「リビングKid'sフェスタ」を行いま
した。みんなのお目当て、ステージショーは上
階まで観客がズラリ。人気のそれいけ！アンパ
ンマン ショーに加え、メルちゃん・ネネちゃん
ハッピータイムも上演。「メルチャーん！」と小
さな女の子たちが夢中になりました。会場には
子育てミセスに役立つ展示や、親子で体験で
きる出店も。モール内で行ったスタンプラリー
も行列に。土曜の来場は通常の120% UP。日
曜は台風到来にも関わらずイベント効果で約6
万人がモールを訪れました。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本

松田恵美子

編集長



創刊1500号記念「コスバ最強グルメ」
10店舗に1カ月間途切れぬお客様が…

創刊1500号の目玉企画として、幅広い世代
の読者層に喜んでもらえるグルメ企画を発売。
本格フレンチから焼肉、和食…とすべて税別
1500円で地元の人気店に内容の濃いメニュー
を提供していただきました。
配布後2週間で、すでに200食・さらに300
食の予約が入ったレストランや、1カ月分の予
約が1週間ほどで埋まってしまったというお店
も。さらに普段は20代の利用者が中心だった
カフェに、おしゃれなマダム達が増えたなど、
大きな反響をいただきました。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま

高山由美子

副編集長



紙面とWEBの融合で広がる読者
行動を動機づけ、行政との連携にも発展

新春送り合いプレゼントで紹介した「広島赤鷲」
をツイッターでリツイートプレゼントしたところ、
1142件の応募があり、応募者数が大幅に増加。
それを機に、紙面・動画・ツイッターを連動させ
たプレゼントコーナーを企画。知名度アップに貢
献。また、読者とともに街を訪れる「マチスタッ
グラム」では、写真をInstagramにも掲載。この
他「パパ家事研究所」を立ち上げ、男性向けの
家事を紹介。男性の家事参加に注力する広島県
に働き掛け、出稿を獲得。行政との連携強化も
視野に。今後も紙面とWEBの連携を模索します。

Kitakyushu

西日本リビング新聞社
リビング北九州

植田詩生

編集長



行動したいけれど何をすればいい？
支援したい読者と一緒に「古本市」

九州北部豪雨復興支援「古本市」のために、
読者や取材先などから寄せられた本500冊
超！ ラッピングされた本やメッセージカード
付きの本もあり、1冊1冊から真心が伝わっ
てきました。これらの本に地元企業提供のお菓
子や野菜を加えた1000点以上を100円均一で
販売し、集まった義援金約11万円を被災地へ。
「行動したい気持ちはあるけれど、何をすれば
いいかわからない」読者が参加しやすいイベ
ントを企画すれば、読者は動いてくれる！今
回の古本市で実感しました。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま

内村由美子

編集長



魚料理が苦手なママにも大好評！
大手スーパーとのコラボで魚食大作戦

三方を海に囲まれた鹿児島なのに、魚介類の
消費量は全国46位。この衝撃的なデータに、
「なんとかしなくちゃ！」と始めたのが「魚食
アップ大作戦」です。魚料理が苦手な人でも作
りたくなる簡単レシピを次々に紹介。同時に大
手スーパー「イオン」とコラボし、レシピと連
動した魚介の販売を始めたところ、売り上げが
大幅にアップ。読者からも「食卓に魚料理が並
ぶ機会が増えた」「子どもが喜んで魚を食べる
ようになった」と大好評で、引き続き、魚食ア
ップを目指して展開中です。